

口數ノ事略

中

我が寛政十一年、口二千五百四十七萬一千三十三、

右ヲ七年前ノ子年人別改ト突合セテ、各國増減差引五十七萬九千五百九十二ノ増ナリ、是ヲ以テ凡ニ推ドキハ、此節ハ又餘程ノ増數ナルベシ、其上ニ我人別ハ公家武家并ニ寺社等ヲ省キタル者ナリ、是等ヲ加ルトキハ三四千萬以上ハアルベシ、

○按ズルニ、戸口ノ事ハ、政治部上編下編ノ戸籍篇ニ詳ナリ、

〔閑田耕筆〕本邦の風は質直にて、文飾少しが本色なるべし、善も惡も進むに速にして省る所ならざるか、はた質直によりて、天皇を仰ぐこと、實に天のごとし、民心一々なればか、雄略紀に樟姫といふ者、其夫弟君が父と共に上に叛を知りて、ひそかに殺せるを、國家情深君臣義切、忠踰白日、節冠青雲褒給ヘリ、婦にして夫を殺すを節とし、忠とせる紀者の詞あたらずといへども、國風の然らしむるなり。○中略

風習といふものは、いかにともすべからず、唐山にて國々の風を論するごとく、吾朝にても大國の人は氣象おのづから優に小國の人は遅れり、或は其領主勢あれば、士民驕泰に、勢なければ畏縮す、海濱の人は散漫に、山中の人は儉素なり、市井の人は黠智多く油滑に、僻境の人は魯直にして偏窄なり、孔子曰里仁爲美、擇不處仁焉得知と、是地によりて氣をうつすの由なり、論語徵に、里の字を居のごとくなしてみると、亦理あれども、唯字のまゝに見れば如此し。

〔南海通紀二十一〕老父夜話記

三谷掃部左衛門ハ天文八年ノ產ニシテ、寛永ノ晩マデ存命シ、百餘歳ヲ超タリ、其子彦兵衛ハ元龜二年ノ產ニテ、將軍八代ヲ度ル、渠ガ夜話ニ曰ク。○中略總テ四國ハ上世ヨリ佗國ニ不交國人ナレバ、諸將兵卒凡民ノ分定ヲ、其禮義ヲ不紊法令嚴重也、人倫部類ハ田夫ノ婦ヲ田佗ト云、其夫ヲ